

# 第2回 JASH のつどい

聖マグダレナ・ソフィア列聖 100周年記念

## 校歌・聖歌集



日本聖心同窓会 (JASH)

2025年10月4日(土) 聖心女子大学 聖マグダレナ・ソフィア聖堂



# 我等は常に一ならん (一致の歌)

詞・曲 城戸崎春美



1 な べ て の こ の こ ら よ い つ な - ら - ん て  
2 み こ こ ろ の こ ら よ い つ な - ら - ん あ



ん に ま き し ま す に ま む の す も - と - に て とあ  
い の ま き し ま す に ま む の す も - と - に て とあ



も つ に き め し か ん ず き と つ こ ち - し か え わ に ん みか  
も つ に き め し か ん ず き と つ こ ち - し か え わ に ん みか



さ か え あ く れ に と の ほ き ぎ た う た - わ - ん と こ地  
さ み か の え み あ く れ に と の ほ き ぎ た う た - わ - ん と こ地



え た か て ら ま か で に も み す な す た み た ゆ - え - ん  
え た か て ら ま か で に も み す な す た み た ゆ - え - ん

我等は常に一ならん

(一致の歌)

一 すべての子らよ 一ならん

天にまします 主のもとに

ともにぬかずき とこしえに

み栄えあれと 祝き歌わん

声高らかに 御名たたえん

二 みこころの子らよ 一ならん

愛の絆に 結はれて

篤き信仰 培わん

神の御国の 来たれかしと

地の果てまでも 進みゆかん

三 我ら同胞 一ならん

みまかりしもの 靈魂に

絶えざる光 祈りまつらん

あまつ御国に 聖らことともに

神にまみゆる その日まで

四 我らは常に 一ならん

母なる教会 守るため

心尽くして 戦わん

地上の平和の 旗のもと

とこしえの幸 得る日まで

小林聖心女子学院 校歌

1.2.5.

あ さ に ゆ う べ に な る か ね の す み

て— き よ け き お か の え に わ が ま な び

や の は た— た か し よ る ず の と く の—

も と い な る み こ こ ろ よ り そ な が れ ず

る ぼ せ い の あ い の い ず み こ そ Fine

3.4.

あ さ ひ か が や く さ く ら ば な や

ま と こ こ ろ の さ き— に お う う ま し お と

め を は く— く め る い ず み の な が— れ—

く み て し る あ い— に ね ざ せ る— ぎ む の ね ん 終

小林聖心女子学院校歌

一、朝に夕に鳴る鐘の

澄みて清けき丘の上に

わが学び舎の旗高し

萬の徳のもといなる

聖心よりぞ流れ出る

母性の愛の泉こそ

二、我等の仰ぐ聖心と

高くかかげて進むなり

萬の国のはてまでも

萬里の波の彼方にも

なにかおそれん人の為

愛に境はなきものを

三、朝日輝く桜花

大和心の咲き匂う

美まし少女を育める

泉の流れ汲みて知る

愛にねざせる義務の念

四、信望愛の三つの徳

萬の徳のもといぞと

知るや少女せうご子聖心の

花の冠かむりいだきて

よき子よき妻よき親の

五、鑑となりて人の為

親おやの為また夫つまの為

子の為さては世の為に

心をつくし身をつくし

母性の愛を高らかに

平和のためにつくせかし

### \*小林聖心女子学院の校歌来歴について\*

小林聖心女子学院の校歌は、聖マグダレナ・ソフィア・バラの列福記念に作られた曲が原曲となっていることをご存知ですか？ 永いこと作曲者不明だった校歌の、来歴がわかるきっかけとなる楽譜が発見されたのは、2003年のこと。ローマ字で日本語の歌詞が記された手書きの校歌楽譜でした。この楽譜のメモが手がかりとなり、原曲へとたどり着く劇的とも言えるドキュメントが2016年発行の「小林みこころ会会報」第35号に詳解されています。今回、ご許可をいただき転載いたしました（20・21頁）。ぜひご参照ください。

本歌集では、小林聖心の校歌とは別に、会報で解説されている古い楽譜とその後発見された新たな楽譜を掲載いたしました。

- ① 2003年に小林聖心の修道院で発見された、ローマ字で歌詞が書かれた校歌の楽譜と歌詞（5頁～10頁）
- ② 1908年、聖マグダレナ・ソフィア・バラ列福記念に作曲された校歌の原曲とされる楽譜（11頁～18頁）
- ③ 2022年夏に発見された英語版の歌詞の楽譜（19頁）

③は、会報が出た6年後に新たに発見された英語版の歌詞の楽譜です。独特の筆記体が聖心の卒業生にはどこか懐かしさを感じさせます。小林聖心女子学院の楚良深先生は「英語版の楽譜は、2022年に学校の倉庫で偶然見つけたものです。おそらく1925年の聖マグダレナ・ソフィアの列聖を記念して、イギリス（ローハンプトンではないか）で英語版がつくられたものと思われます。イギリスで聖心会マザーになられたマザー岩下亀代が、この頃日本に帰国して、小林に着任しておられるので、マザー亀代が持ち帰った可能性も考えられます」とコメントを下さいました。これからも、歴史のなかに隠された贈り物がどんな形で手渡されるのか、感謝と喜びは尽きません。

今回、古い資料の楽譜掲載、会報の転載につきましては、小林聖心女子学院校長シスター大原眞実、楚良深先生、小林みこころ会前会長辰巳淳子氏（小み55）、会長濱崎由記子氏（小み57）に多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

# Graduation Ceremony -

The words were first  
changed - Feb. 1935.  
Wunibald Briere  
These words were first sung

## School Song.

*mf*

a ya nika shi ho ki su me - ra gi  
ko re kyo - i ku no, mi na - mo to

*mf*

no, mi i zu - o a o gu o  
to, ta ka ku - ka ka ge te, su

*mf*

ka - no e no, wa ga ma na be  
su - mu na ru se ka i no ha

*mf*

ya no, ha ta - ta ka ku Na  
 te no, ha te - ma de ma, Ba

Sempre cresc.

bi ku wa wa re ra - shū - dō -  
 n ri no nia mi no - ka na ta ni

cresc.

cresc.

no, mi ko ko ro yo ri zo  
 mo, Ma ni ka o so re n,

f.

na ga re zu ru, Bo se i no a  
 hi to no ta me, a i - ni kok

*riten.* i no i - zumi ko so, 2 Ya  
 kyō - na - ki mo no zo. Chū  
*rit* Fine. *p*  
 Fine. *p*  
 Fine.

ma to go ko ro no sa ku - na ba  
 - to kō - to wa so no - ha na

*Sempre legato*

*p*

na, Ya ma to o to me o ha  
yo, Re i to chi shi kei wa so

*mf* *p*

gu - ku me ru, A i ni hi ta  
no - mi zo to shi ru ya o to

*sempre cresc.*

se ru gi mu - no ne n, Ko  
me go Se i - shi n no, ka

*sempre cresc.*

*cresc.* *f*

no - du - ty - no - ko - ko no ko  
 na no ka n mu - ri - i - ta da ki

*cresc.*

so ' wa re ra no mi ha ha no -  
 te no ni mo hi to ni - mo -

*f* *riten.* *f* *riten.*

mo - - to - zo.  
 tsu - ku se ka shi.

Repeat the 1<sup>st</sup> verse.

1935年2月改定 小林聖心女子学院校歌

(前頁までのローマ字表記を日本語に直したもの)

あやにかしこき 天皇の  
み稜威を仰ぐ 丘の上の  
我が学舎の 旗高く  
なびくは我ら 修道の  
聖心よりぞ 流れ出る  
母性の愛の 泉こそ

大和心の 桜花  
大和乙女を 育める  
愛に涵せる 義務の念  
この デューティーの 心こそ  
我らのみ母の モットーぞ

これ教育の 源と  
高く掲げて 進むなり  
世界の果ての 果てまでも  
万里の波の 彼方にも  
なにか怖れん 人の為  
愛に国境 無きものぞ

忠と幸とは その華よ  
礼と知識は その水と  
知るや乙女子 聖心の  
花の冠 戴きて  
世にも人にも 尽くせかし

# Jubelhymne

zu Ehren der seligen Mutter  
**Sofia Magdalena Barat**, Stifterin  
der Congregation der Frauen des heiligsten Herzens Jesu.

Komponiert  
für 3 stimmigen Frauenchor  
mit Klavier-oder Harmonium-Begleitung

VON

# Wunibald Briem.

Preis M 1.

Eigentum des Verlegers für alle Länder.  
REGENSBURG  
Alfred Coppentrath's Verlag.  
H. PAWELEK.

# Jubelhymne

zu Ehren der seligen Mutter Barat.

Wunibald Briem.

Vorspiel.  
Freudig bewegt.

KLAVIER  
oder  
HARMONIUM.

*mf*

*cresc.*

*r. H.*

*mf*

*sempre cresc.*

*f*

*cresc.*

Freudig bewegt. Mit Jubel und Begeisterung.

SOPRAN I. II.

1. Im Cho - re der Ge - krön - ten nimm huld - voll in Em - pfang, So -  
 2. Du bahn - test uns die We - ge durch star - ken Op - fer - mut, ge -

ALT I. II.

fi - a Mag - da - le - na, der Lie - be Preis - ge - sang. Des  
 tra - gen von der Lie - be zu dem al - lein' - gen Gut. Das

*sempre cresc.*

Her - zens Je - su Ban - ner ward dir zum Siegspa - nier, er -  
 Herz im Dor - nen - kran - ze, es schmück - te dein Pa - nier, er -

*sempre cresc.*

*cresc.*

kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir! Er -  
 kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir! Er -

*cresc.*

*f*

kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir! Er -  
 kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir! Er -

*f*

*f*

kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir!  
 kenn' in uns die Dei - nen! Mut-ter, wir fol - gen dir!

*riten.*

*riten.*

## Halbchor.

*p*

3. Dein Ei - fer für die See - len ließ dir nicht Rast noch  
 4. Wie blick - test du voll Glau - ben und un - ter - tän' - gem

*p* *sempre legato*

*p*

Ruh, du führst in dich - ten Scha - ren sie  
 Sinn stets auf die ho - he War - te, den

*p*

*mf* *p*

dei - nem Hei - land zu. Das Herz, draus Flammen schla - gen, sahst  
 Fel - sen Pe - tri hin! Und Lie - be zu Ma - ri - a schriebst

*mf* *p*

*sempre cresc.*

du auf dem Pa - nier. Er - kenn' in uns die  
 du auf dein Pa - nier. Er - kenn' in uns die

*sempre cresc.*

*sempre cresc.*

*cresc.* *f*

Dei - - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir! Er -  
 Dei - - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir! Er -

*cresc.* *f*

*cresc.* *f*

*cresc.* *f* *riten.*

kenn' in uns die Dei - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir!  
 kenn' in uns die Dei - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir!

*cresc.* *f* *riten.*

*cresc.* *f* *riten.*

5 Chor.

*mf*

5. Wir fol - gen dir im Le - ben und fol - gen dir im Tod, ge -  
 6. Wenn wir den Kampf be - stan - den, wenn Treu - e wir ge - wahrt, und

treu den heil - gen Schwü - ren, die Lie - be uns ge - bot. Mag  
 dann im Ha - fen lan - den nach mü - he - vol - ler Fahrt. O

*f* *p*

auch die Welt uns schmä - hen und höh - nend das Pa - nier. Er -  
 stel - le dann die Del - nen dem Her - zen Je - su vor, daß

*sempre cresc.*

kenn' tu uns die Dei - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir! Er -  
 ihm sie sich ver - ei - nen im sel - gen Ju - bel - chor, daß

*f*

*sempre cresc.*

kean' in uns die Dei - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir! Er -  
 ihm sie sich ver - ei - nen im sel - gen Ju - bel - chor; da ß

*crese.* *f*

kenn' in uns die Dei - nen! Mut - ter, wir fol - gen dir!  
 ihm sie sich ver - ei - nen im sel - gen Ju - bel - chor!

*f molto ritard.* 1. 2.

*f* *f molto ritard.*

Nachspiel.

*ff*

*poco ritard.*

No. 20. Hymn to St. Madeleine Sophie. B. Flg. Sheet



1<sup>o</sup>. Re - ceive St. Madeleine Sophie our loving song of praise, So thee mid choir of  
2<sup>o</sup>. With thee in work + labour All faithful in the strife, With thee St. Madeleine



1. Crown'd Sto. an ar - dent voice we raise, Thy banner was the Master's, His.  
2. So - phie we each hour of life. The world may storm a - round us And



1. Heart thy victo - ry. Ac - knowledg us thy children, Mother we follow  
2. Doyn our banner bright, But thou wilt know thy children, And lead them unto



1. thee! Ac - knowledg us thy chil - dren Mother we follow thee! Ac -  
2. light But thou wilt know thy children And lead them unto light, But.



1. knowledg us thy children, Mother we follow thee! Thy zeal St. Madeleine  
2. thou wilt know thy children And lead them unto light! When we have stood  
thy the



1. So - phie did lead thee far + wide, To conquer souls for heaven to  
2. struggle + labour'd faith - ful - ly 'Tis then St. Madeleine Sophie we



1. Christ our Saviour's side we too have borne His banner, His Heart our victo -  
2. ga - ther close to thee, This then that thou wilt offer, When we go hand  
in



1 ry, Ac - knowledg us thy chil - dren, Mother we follow thee! Ac -  
2. knowledg us thy Our Lord for ev - er In the blest father land, So



1. knowledg us thy chil - dren, Mother, we follow thee!  
2. Christ Our Lord for ev - er in the blest father land.

Repeat Verse I to \*

## 特集記事

(平成27年度の総会で披露された46回生制作の資料映像「いつも音楽とともにあった」より)

# 校歌のルーツ 明らかに

♪朝に夕に 鳴る鐘の 澄みて 清けき 丘の上に

在学中、行事の度に、頭のとっぺんから声を張り上げ歌った校歌。慣れ親しんだあの調べは、いったい、いつ、誰によって作曲されたものなのでしょう。

実は長い間、作曲者は不明でした。ところが近年、校歌には、遠くヨーロッパの地で作曲された原曲のあったことが、学院の方々の尽力と研究で明らかにされました。

その原曲とは「聖心会の創立者 福者マザーバラの栄誉への祝祭歌」。作曲者はヴニバルト・ブリームというオーストリア生まれの音楽家でした。1908年、マグダレナ・ソフィア・バラが福者に列福された際、お祝いに作曲されたとみられています。

一体、ヴニバルト・ブリームとはどんな人物で、私たちの母校と、どのようなつながりがあったのでしょうか。



マグダレナ・ソフィア・バラ  
1865年帰天、1908年福者に。  
1925年聖人に列聖

### 【修道院で貴重ながかり】

原曲発見の発端は、2003年の夏、小林の修道院でみつかった、古い手書きの音楽ノート(写真右)でした。そのなかに校歌の楽譜が含まれていたのです。

この楽譜は戦前から使われていたもので、歌詞はローマ字で書かれており、日本語を母国語としないマザー方が聞き取った音のままに表記したものであることがうかがえます。

楽譜上部の「School Song」というタイトルの横、手書きのメモの行間に、小さく読み取れる「Wunibald Briem」の文字。これが長らく不明だった作曲者の初めての手がかりでした。

現在、高校で歴史を教えていらっしゃる楚良深(そら しん)先生が、この手がかりをもとに調査されたところ、ブリームはスイスやリヒテンシュタインとの国境に近いオーストリアの町フェルトキルヒ生まれ。ミュンヘンで学んだのち、故郷で教える傍ら作曲者として活動。その作品リストに、マザーバラの祝祭歌があることまで突き止められ、ブリームと聖心会の直接的なつながりが明らかにされました。

さらに、祝祭歌の楽譜のコピー(写真右下)を、ドイツ管区のシスターイルゼマリー・ヴァイフェンから提供いただき、メロディーが小林の校歌と同じであることも確認されたのでした。



ヴニバルト・ブリーム

### 【マザーマイヤーと作曲者をつなぐ糸】

マグダレナ・ソフィア・バラの列福の祝祭歌が、小林聖心の校歌となった詳しいいきさつはわかりませんが、おそらくは、小林の創立者であったマザーマイヤーが来日の際、楽譜を持参されていたのだろうというのが楚良先生のご推測です。

マザーマイヤーの兄で司祭であったルーペルト・マイヤーが、フェルトキルヒ



ドイツの修道院に  
保存されていた原曲の楽譜

の町に赴任していたこともわかっており、教会のオルガニストを務めていたブリームとは、おそらく知り合いであったことでしょう。ルーペルトを通じて、ブリームに祝祭歌の作曲が依頼された可能性もあるのです。

ドイツ語圏で作られた原曲ですが、いまでは当地ではあまり歌われていないとのこと。2004年の創立者の記念日に、ローマの聖心会修道院でイタリア語版が歌われたこと、スペインや中南米諸国ではスペイン語版、ニュージーランドでは英語版が歌われているという情報があるそうです。

### 【歌詞について】

こうして、校歌の曲について、多くのことがわかりましたが、歌詞を作詞したのが誰であるのかは、いまだわかっていません。

明治期の作家で教育者であった星野天知作詞とする説や、その夫人で、住吉聖心（小林聖心の前身）設立のころから、マザーマイヤーの片腕として活躍された星野萬学監によるものではないかという説もあります。

前出の修道院でみつかった楽譜には英語の手書きメモで、「歌詞は1935年に変更されたので、これはオリジナルではない」と記されています。その後、「1947年ごろに現在の歌詞に変わった」という卒業生の証言もあり、いくつかの変遷があったことは明らかです。

いつの日か、修道院のどこか、あるいは、学院の記録の思わぬ片隅から、校歌の作詞者について記したメモが発掘される—そんなサプライズな出来事が起こるといいですね。

### 【音楽教育の源泉】

クリスマスキャロルをはじめとする数々の行事やミサ。振り返れば、みなで声を合わせて歌うことの実に多い学院生活でした。こういった小林の音楽教育の源泉について、『日本における聖心会八十年の歩み』のなかで、シスター三好切子は次のように記しておられます。

「初期に来日した修道女のなかには、優秀な音楽家が何人もいた。中でもマザーマイヤーとマザークーンはすばらしいピアノの先生として、生徒たちの尊敬を集めていた。今でも機会あるごとに生徒・卒業生が声を合わせて歌う『聖心（みこころ）への射禱（しゃとう）』はマザークーンが作曲したものである」

♪ May the Sacred Heart of Jesus  
Be every-where known and loved  
（「聖心への射禱」歌詞）

明治・大正期、遠い異国から来られたマザーたちが、信仰と音楽の力によって言葉の壁を越え、生徒たちと心を通わせる—そんな日々の積み重ねが、今にいたる小林の音楽教育につながっているのかもしれない。

（文責 46回生 村田佳子）



小林聖心の初代院長のヘルマナ・マイヤー  
1909年(明治42年)に来日、神戸市東灘区鴨子ヶ原の「住吉聖心」を経て「小林聖心」を創設



ルーペルト・マイヤー  
司祭としてフェルトキルヒの町に赴任したこともあるマザーマイヤーのお兄さん

### 出典について



教職員の方々による冊子「研究のあゆみ」

今回ご紹介した内容は、冊子「研究のあゆみ」に発表された「小林聖心女子学院の歴史遺物～創成期の校歌について～」および、授業向けに作成された教材内容からまとめさせていただいたものです。「研究のあゆみ」16号と

17号には、「校歌の原曲」の研究の経緯、原曲の歌詞、また古い校歌の歌詞なども発表されています。

#### ★掲載写真について★

校歌原曲である祝祭歌の楽譜、作曲者ヴニバルト・ブリーム、マザーマイヤーの兄、ルーペルト・マイヤーの写真はいずれも楚良先生からご提供いただきました。

不二聖心女子学院 校歌

作詞 木村 太郎  
作曲 松井 寿美子

あ ま そ— そ る— ふ

じ の た か ね し— く れ な— い

に— は ゆ る あ し た は— さ

や け か— り け る い ざ や と も ど

ち きょう— も ま た ふ み の

は や し に わ け い ら

ん— あ あ— わ れ ら が ま な び

や— ふ じ せ い し ん

不二聖心女子学院校歌

作詞 木村 太郎

作曲 松井 寿美子

一、あまそそる 富士の高ねし

くれないに はゆるあしたは

さやけかりける いざや友どち

今日もまた文の林にわけいらん

ああわれらが学び舎 不二聖心

三、たたなずく 箱根山なみ

赤々と もゆる夕べは

静けかりける いざや友どち

今日もまたよき日給いし主を讃めん

ああわれらが学び舎 不二聖心

二、見はるかす 伊豆の群山

紫におう 真昼は

のどけかりける いざや友どち

今日もまた若き生命につちかわん

ああわれらが学び舎 不二聖心

聖心女子学院 校歌

詩 尾上 柴舟  
曲 ヘンデル曲より  
シスターウオーディ 編曲

Largo 



あ お—げ ば—み そらの は て な き



ひ か—り のぞめば の—やまをお—おえ—るこ—みど—り



ちりくる ゆきそ—そくし くれ



は—なのい—ろか み—ずのひ—びき



か すみ のにおい とりのさえず—りきよし



や ああみ—なきよ—し

**Andante con moto**



あめとつちとの なかにうまれて



なにとてひとの きよくは



あ—らぬ た ゆ む



こ と な く や す む こ と な く



わ れ ら は き よ め

*Adagio*



ん こ こ ろ き よ



めん あ し た の か ね の ひ び く と



と も に ゆ う べ の ほ し の ま た た き す る ま で



お し え を き か ん ふ み を よ ま ん



け が れ さ ら ん に ご り す て ん



こ の よ の な か に す ぐ れ て き よ く あ ら ま ほ



し わ れ ら が こ こ ろ

# A WORLD OF DIFFERENCE

for 2-part voices, accompanied

Words by  
JOSEPH and PAMELA MARTIN

Music by  
JOSEPH M. MARTIN (BMI)

Moderately

PART I

PART II

ACCOMP.

*mf*

*mf*

It

③

takes the sun - shine and the rain \_ to help a gar - den grow. \_

The

Performance time: approx. 3:00

Our  
sun and moon to - geth - er work to make the o - cean flow...

⑦

strength is in our dif - f'ren - ces, — the gifts we have to share. — and to -  
*mp* Ah, — *mf* ah, — and to -

geth - er we can build a bet - ter world for peo - ple ev - 'ry - where. —  
 geth - er we can build a bet - ter world for peo - ple ev - 'ry - where. —

(12)

*f*

— We're the col - ors of the rain - bow; — we're the

*f*

— We're the col - ors of the rain - bow; — we're the

stars up in the sky. No\_ two of us\_ are quite the same\_ and\_

stars up in the sky. No\_ two of us\_ are quite the same\_ and\_

(16)

here's the rea - son why:\_ We all have a pur - pose and a

*mf*

here's the rea - son why:\_ Ah, \_\_\_\_\_

18

spe - cial place to serve for it takes a world of dif - f'ren - ces \_ to make a

ah, \_\_\_\_\_ for it takes a world of dif - f'ren - ces \_ to make a

dif - f'rence in our world.

dif - f'rence in our world.

22

*mf*

Moun - tains need the val - leys, \_ the wa - ter needs the sand,

*mp*

Ah, \_\_\_\_\_ ah, \_\_\_\_\_ and

*mf*

Ah, \_\_\_\_\_ ah, \_\_\_\_\_ So

we all need each oth - er \_ \_ to lend a help - ing hand.

26

we must work to - geth - er; \_ \_ we can't do it a - lone. \_ Yes,

Ah, \_\_\_\_\_ ah. \_\_\_\_\_ Yes,

we all need each oth - er \_ \_ to make this house a home. \_\_\_\_\_

we all need each oth - er \_ \_ to make this house a home. \_\_\_\_\_

31

— We're the col - ors of the rain - bow; — we're the

O. we're the

stars up in the sky. No — two of us — are quite the same — and —

stars, up in the sky, the same and

35

here's the rea - son why: — We all have a pur - pose and a

here's the rea - son why: — Ah, —

spe - cial place to serve\_ for it takes a world of dif - f'ren - ces\_ to make a  
 ah, \_\_\_\_\_ for it takes a world of dif - f'ren - ces\_ to make a

39

dif - f'rence in our world.  
 dif - f'rence in our world.

41

We're , the col - ors of the rain - bow;\_ we're the  
 O we're the

stars up in the sky. No two of us are quite the same and

stars up in the sky. the same and

here's the rea - son why: we all have a pur - pose and a

here's the rea - son why: Ah, \_\_\_\_\_

spe - cial place to serve for it takes a world of dif - f'ren - ces to make a

ah, \_\_\_\_\_ for it takes a world of dif - f'ren - ces to make a

*mf*

dif - f'rence in our world, for it takes a world of dif - f'ren-ces\_ to make a

*mf*

dif - f'rence in our world, for it takes a world of dif - f'ren-ces\_ to make a

*mf*

*rit.*

dif - f'rence in our world. \_\_\_\_\_

dif - f'rence in our world. \_\_\_\_\_

*rit.*

CP

## A WORLD OF DIFFERENCE

Words by JOSEPH and PAMELA MARTIN

Music by JOSEPH M. MARTIN (BMI)

It takes the sunshine and the rain  
to help a garden grow.  
The sun and moon together work  
to make the ocean flow.  
Our strength is in our differences,  
the gifts we have to share  
and together we can build  
a better world for people ev'ry where.

We're the colors of the rainbow.  
We're the stars up in the sky.  
No two of us are quite the same and  
here's the reason why:  
We all have a purpose  
and a special place to serve,  
For it takes a world of differences  
to make a difference in our world.

Mountains need the valleys.  
the water needs the sand,  
And we all need each other  
to lend a helping hand.  
So we must work together;  
We can't do it alone.  
Yes, we all need each other  
to make this house a home.

We're the colors of the rainbow  
We're the stars up in the sky.  
No two of us are quite the same and  
here's the reason why:  
We all have a purpose  
and a special place to serve,  
For it takes a world of differences  
to make a difference in our world.

(reprise)

For it takes a world of differences  
to make a difference in our world.

聖心女子大学 校歌  
若いいのちよ

明るく、美しく

$\text{♩}_{100}$  M.M.

團 伊玖磨 作曲  
*espr.*

1

*mf*

は ゆ ぼ け た ゆ け わ か い い の ち  
ゆ け た ゆ け わ か い い の ち

よ 未 ら い へ 未 ら い へ み ち を ひ  
し ん 理 へ も と め て あ ゆ み つ づ け

*mf*

け さ い 聖 に ね ざ し た へ い 和 の み ち  
よ み ち の べ に あ い の 火 を も え た た せ

を U - bi Car - i - tas U - bi Car - i -

*f*

tas I - bi De - us I - bi De - us.

2. *mp*

よ み こ こ ろ の ひ か り は み ち ゆ く ひ と の う

*mf* *cresc.*

え に あ か る く て ら す み こ こ ろ の 火

*f* *ff*

は U - bi Car - i - tas U - bi Car - i -

*ff*

tas I - bi De - us I - bi De - us.

聖心女子大学校歌

『若いいのちよ』

はばたけ、若い生命よ

未来へ道をひらけ、

正義にねざした平和の道を。

ウビ カリタス

イビ デウス

ゆけ 若い生命よ

真理を求めて あゆみつづけよ。

道辺に愛の火をもえたたせよ。

聖心の光は（導く）

道ゆく人のうえに。

明るく照らす、聖心の火は。

ウビ カリタス

イビ デウス

札幌聖心女子学院 校歌

横山 峰子 作詞  
中田 喜直 作曲

♩ 88 明るく、美しく  
*mp*



ゆりのかおりに つつまれて さやかにすみし—

*f*



まなびやに われら つどいてもとめん

*mf*



とわ—にかわらぬまことのみちを とわにかわらぬ

*mf*



まことのみちを D.C.

*f*



かみのみむねのままになれかしと

札幌聖心女子学院校歌

作詞 横山 峰子

作曲 中田 喜直

一、百合の香りにつつまれて

清かに澄みし学び舎に

われら集いて求めん

永遠にかわらぬ

真理の道程を

三、白銀映えし札幌の

イエスの聖心の学び舎に

われら集いて祈らん

神の御旨のままに

なれかしと

二、萌える緑の宮の森

マリアを慕いし学び舎に

われら集いて励まん

我が身のごとく

他人を愛さん

校 歌 (札幌聖心旧校歌)


詩 大木 敦  
曲 信時 深



あ い の い ず み の イ エ ス の  
め く み の み ち る 聖 マ リ ア  
わ れ ら の み は は 聖 マグダ レ ナ




み こ こ ろ あ お い で し ん こ う あ つ く  
こ ほ こ の も と に の ぞ み は た か く  
ソ フィアの あ い の み お し え ふ か く



ま こ と の ひ と と な る た め に  
ち し き を み が き わ ざ を ね り  
ひ こ と に う け て そ だ ち ゆ く



こ こ ろ を つ ち か う み そ の は  
か ら だ を き た え る み そ の は  
さ い わ い み ち る み そ の は



わ れ ら の ま な び や 聖 心 女 子 学 院  
わ れ ら の ま な び や 聖 心 女 子 学 院  
わ れ ら の ま な び や 聖 心 女 子 学 院

## 聖マグダレナ・ソフィア



1 さつ き さやー け き あお ぼのか げ に みこ  
2 すず か けかー お る とお びき みく に に おし



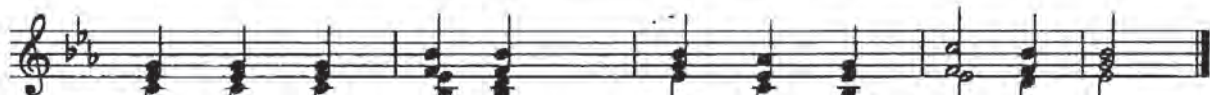
こ ろのお と め き み が よき 日 を つ ど  
え もとお と き き み こ こ ろの あ い こ た



い てこ と ほ く よ ろ こ び の こ ろ え み そ  
え てけだ か き き み が こ こ こ ろ に え い



ら に は る け き み つ か く い と と も  
ち と あ い と を ふ か く ひ め た も う



サン タ ソ フィ ア い の り た ま え

なつきさやけき(聖マгдаレナ・ソフィア)

一 なつきさやけき あおぼのかけに

みこころのおとめ きみがよき日を

つどいてことほぐ よろこびのこえ

みそらにはるけき みつかいととも

三 とわのよろこび あいのきわみよ

じゅうじのけいろも にえのしれんも

あいにたえつつ ただひとすじに

みこころにちかく しのびたまえり

二 すぐかけかおる とおきみくにに

おしえもおとめ みこころのあい

こたえてただかき きみがこころに

えいちとあいとを ふかくひめたもう

四 たかくかかげし みこころのとく

おくぎのいずみ ひたぶりにくみ

ちのはてしまでも すすみわけいり

そそきてやまざる きみがおおしき

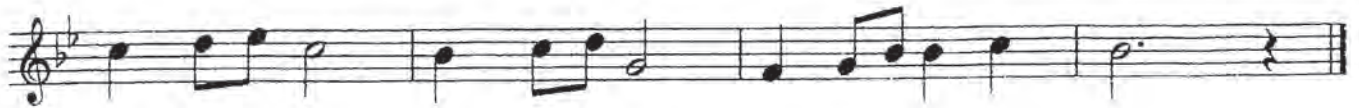
サンタソフィア いのりたまえ

# 聖マグダレナ・ソフィアの歌 射祷(1)

Sr 村上 英子 作詞



1 わ れ ら の み は は な る せい マ グ ダ レ ナ ソ フ ィ ア  
 2. わ れ ら の ほ ご し や な る せい マ グ ダ レ ナ ノ フ ィ ア  
 3. わ れ ら の か が み な る せい マ グ ダ レ ナ ノ フ ィ ア  
 4 み こ こ ろ の し と な る せい マ グ ダ レ ナ ノ フ ィ ア



1~4. わ れ ら の た め に い の り た ま え

一、我等の御母なる

聖マグダレナ・ソフィア

※我等のために 祈りたまえ

二、我等の保護者なる

聖マグダレナ・ソフィア

※くりかえし

三、我等の鑑なる

聖マグダレナ・ソフィア

※くりかえし

四、聖心の使徒なる

聖マグダレナ・ソフィア

※くりかえし

# Hallelujah Chorus

オラトリオ「メサイヤ」より

ヘンデル 作曲

Allegro moderato

Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah!

*f* *ff sempre*

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

*f cresc.* *ff* *f cresc.* *ff* *f cresc.* *ff* *f cresc.* *ff*

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

*ff* *f cresc.* *ff*

*ff* *f cresc.* *ff*

*ff* *f cresc.* *ff*

*ff* *f cresc.* *ff*

for the Lord God om-ni - po-tent reign-eth. Hal-le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le -

for the Lord God om-ni - po-tent reign-eth. Hal-le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le -

for the Lord God om-ni - po-tent reign-eth. Hal-le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le -

*ff* *mf cresc.* *ff*

*ff* *mf cresc.* *ff*

*ff* *mf cresc.* *ff*

*ff* *mf cresc.* *ff*

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! *mf cresc.* Hal - le -

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! *ff* for the Lord God om - ni - po - tent reign - eth, *mf cresc.* Hal - le -

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! *ff* for the Lord God om - ni - po - tent reign - eth, *mf cresc.* Hal - le -

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! *f* for the Lord

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! *mp* Hal - le - lu - jah! Hal - le -

*ff* lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

God om-ni - po - tent reign eth. Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu -

lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu -

Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! for the Lord

*mp* *f*

jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

God om-ni - po - tent reign eth. Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

*f* *cresc.*

*mf* Hal-le-lu-jah!

*ff* for the Lord God om-ni-po-tent reign-eth. Hal-le-lu-jah!

*mf* Hal-le-lu-jah!

*mf* *ff* *cresc.*

*ff* le-lu-jah! *mf* The King-dom of this world *f* is be-

*ff* Hal-le-lu-jah! *mf* The King-dom of this world *f* is be-

*ff* lu-jah! Hal-le-lu-jah! *mf* The King-dom of this world *f* is be-

*ff* *p* *f*

*v* *piu* *f* *ff* *v.f*  
 come, the King-dom of our Lord, and of His Christ, and of His Christ;

*v* *piu* *f* *ff*  
 come, the King-dom of our Lord, and of His Christ, and of His Christ;

*v* *piu* *f* *ff* *v.f*  
 come, the King-dom of our Lord, and of His Christ, and of His Christ; and He shall

*piu* *f* *ff* *f*

*f*  
 and He shall reign for ev - er and ev - er

*mf*  
 reign for ev - er and ev - er, for ev - er and ev - er, and He shall

*tr* *f*

er, *f* and He shall reign for

*f* and He shall reign for ev - er and ev - er, *mf* for ev-er and ev-er, for

*mf* *mf* *cresc.*  
reign, and He shall reign, and He shall reign, for ev - er and ev - er, for ev-er and ev-er, for

*mf* *cresc.*

ev - er and ev - er, *f* King of Kings ,

ev - er and ev - er, *f* for ev-er and ev-er, *mp* Hal-le-lu-jah! Hal-le-

ev - er, for ev-er and ev - er, *f* for ev-er and ev-er, *mp* Hal-le-lu-jah Ha-le-

*f* *mp cresc.*

and Lord of Lords, \_\_\_\_\_ King of

lu-jah! for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah!

lu-jah! for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah!

Detailed description: This system contains the first four staves of music. The top staff is a vocal line starting with a forte (*f*) dynamic and a crescendo (*cresc.*) leading to a final forte (*f*). The second and third staves are vocal lines for two different parts, both starting at mezzo-piano (*mp*) and crescendoing to forte (*f*). The piano accompaniment is on the bottom two staves, starting with forte (*f*) and mezzo-forte (*mf*) dynamics, with a crescendo (*cresc.*) and ending with forte (*f*).

Kings, \_\_\_\_\_ and Lord of Lords, \_\_\_\_\_

for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah! for ev-er and

for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah! for ev-er and

Detailed description: This system contains the next four staves of music. The top staff is a vocal line starting with a very forte (*ff*) dynamic and a crescendo (*cresc.*). The second and third staves are vocal lines for two different parts, both starting with a mezzo-forte (*mf*) dynamic and crescendoing to forte (*f*). The piano accompaniment is on the bottom two staves, starting with mezzo-forte (*mf*) and crescendoing to forte (*f*), then mezzo-forte (*mf*) and crescendoing again.

King of Kings,

ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah! for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-

ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-lu-jah! for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Hal-le-

*ff* *f* *f* *cresc.*

and Lord of Lords, and Lord of Lords, and He shall

lu-jah! King of Kings, and Lord of Lords,

lu-jah! King of Kings, and Lord of Lords, and He shall

*fff* *ff* *f* *mf*

*marcato*  
*f*

reign, and He shall reign, for ev - er and ev - -

*mf* and He shall reign, *mf* and He shall reign, for ev - er and ev - -

reign, for ev - er and ev - er, *mf* and He shall reign, for ev - er and ev - -

The first system of the musical score consists of four staves. The top staff is a vocal line starting with a rest, followed by the lyrics 'reign, and He shall reign, for ev - er and ev - -'. The second staff is another vocal line with lyrics 'and He shall reign, and He shall reign, for ev - er and ev - -'. The third staff is a third vocal line with lyrics 'reign, for ev - er and ev - er, and He shall reign, for ev - er and ev - -'. The bottom two staves are a piano accompaniment, with the right hand playing a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes, and the left hand playing a simpler bass line.

er, *f* for ev-er and ev-er, *f* Hal-le-lu-jah! Ha-le-

er, *mf* King of Kings, *f* and Lord of Lords, *f*

er, *mf* King of Kings, *f* for ev-er and ev-er, *f* and Lord of Lords, *f* Hal-le-lu-jah! Hal-le-

The second system of the musical score consists of four staves. The top staff is a vocal line with lyrics 'er, for ev-er and ev-er, Hal-le-lu-jah! Ha-le-'. The second staff is another vocal line with lyrics 'er, King of Kings, and Lord of Lords,'. The third staff is a third vocal line with lyrics 'er, King of Kings, for ev-er and ev-er, and Lord of Lords, Hal-le-lu-jah! Hal-le-'. The bottom two staves are a piano accompaniment, with the right hand playing chords and the left hand playing a bass line. Dynamics include *mf* and *f*.

*piu f* lu-jah! and He shall reign, for ev - er, for ev - er and ev - er, King of *mf cresc. poco*

*piu f* — and He shall reign, for ev - er, for ev - er and ev - er, King of — *mf cresc. poco*

*piu f marcatissimo* lu-jah! and He shall reign, for ev - er, for ev - er and ev - er, King of — *mf cresc. poco*

*ff* *cresc.*

*a poco* Kings, and Lord of Lords! King of Kings, and Lord of Lords! and *cresc. sempre* *ff* *f*

*a poco* Kings, and Lord of — Lords! King of — Kings, and Lord of — Lords! and *cresc. sempre* *ff* *f*

*a tempo* Kings, and Lord of — Lords! King of — Kings, and Lord of — Lords! and He shall *cresc. sempre* *ff* *ff marcatissimo*

He shall reign, for ev - er and ev - er, King of Kings, and Lord of

He shall reign, for ev - er and ev - er, for ev - er and ev - er, for ev - er and

reign, for ev - er and ev - er, and ev - er, for ev - er and ev - er, for ev - er and

*mf cresc. sempre*

**Adagio**

Lords! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

ev - er. Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

ev - er, Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah! Hal - le - lu - jah!

**Adagio**

2025年10月発行（非売品）

発行 日本聖心同窓会（JASH）

〒150-8938

東京都渋谷区広尾 4-3-1（聖心女子大学内）

印刷所 株式会社技秀堂

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 2-36-15



